

平和と友愛（モニュメント）

平和を愛し、人と人の融和を尊ぶ心やさしい人を乙女の姿で表現した。大きく天に向け両腕を広げているポーズは、未来に向け大きく飛躍しようとしている。はむらぎの姿を、その両腕が描き出す円弧は、市民相互の友愛と郷土愛を表現し、天空に向かい、大きくはばたこうとしている二羽の鳩は、永遠の平和への願いが込められています。



制作者 木内 禮智
設置場所 羽村市役所玄関前
（羽村市緑ヶ丘五丁目2番地1）
設置年度 平成元年度

あとがき

平成二十七年は、昭和二十年の終戦から七十年の節目にあたりますので、先の大戦の悲惨な体験を風化させずに、恒久的な世界平和思想の普及啓発を図ることを目的に、羽村市では、戦後七十周年平和啓発事業を展開していくこととなりました。

その中で、市民の皆様の寄稿による平和作文集の発行、青梅市と羽村市との共同で、中学生が被爆地である広島市を訪問し、ピースメッセンジャーとして、平和意識を広める平和啓発施設見学会の実施、戦争関連資料の展示などを企画しました。

特に、八月十五日の終戦記念日を、平和を考え学ぶ一日に位置付け、平和フォーラムを開催する中で、平和記念式典、平和啓発講演会、映画上映会、広島派遣報告会などを実施し、若い世代が平和の大切さを考え、自ら発信していく契機となれば幸いと考えました。

この本は、今から二年前の平成二十五年八月に作文の募集を開始し、四十名の方々のご協力により、発行することができました。

作文の内容からは、悲惨な戦場での体験、東京大空襲での悲劇、疎開先での暮らしなどを通じて、平和の大切さを認識せずにはいられないものでした。

これらの原稿を書いてくださった方々、目の前で辛い経験を話してくださった方々が、大変な環境の中で、生と死の境を、紙一重で乗り越えてきた人だと思いと、歴史の大きな

うねりに翻弄され、人間のはかなさのようなものを感じずにはいられませんでした。

作文は、執筆者のご意向を最大限尊重するよう努めました。が、万一、不手際等がございましたら、ご了承くださいませ。よろしくお願いいたします。

なお、編集の都合上、掲載の順序は原稿の到着順とさせていただきます。長文については削らせていただいた部分もあり、ご理解を賜りますようお願いいたします。

年々、戦争体験者の高齢化などにより、先の大戦を体験された世代が減少し、戦争という事実が風化しつつある今、執筆者の思いが多くの人に伝わり、世界の恒久平和に繋がっていくことを切に願っています。

今後引き続き、羽村市は平和宣言都市として、平和啓発事業の企画と実施を通じ、世界平和思想の趣旨普及に努めていきます。

最後になりましたが、寄稿していただいた皆様、編集にご協力をいただいた西多摩新聞社の皆様に深く感謝を申し上げます。

大変ありがとうございました。

そして、戦争体験記をお寄せいただいた皆様が、苦勞した昔の分まで、いつまでもお元気でお幸せに過ごされることをお祈り申し上げます。

羽村市企画総務部企画政策課

戦後七十周年記念誌

語り継ぐ戦争の記憶 —平和への願いを込めて—

平成 27 年 8 月 15 日発行

発行 羽村市

〒 205-8601

羽村市緑ヶ丘五丁目 2 番地 1

TEL 042-555-1111 (代表)

FAX 042-554-2921

Mail s101000@city.hamura.tokyo.jp

市公式サイト <http://www.city.hamura.tokyo.jp>

編集 羽村市企画総務部企画政策課

株式会社西多摩新聞社

印刷 株式会社タマプリント



r70

古紙/パルプ配合率70%再生紙を使用

このマークは、3R 活動推進
フォーラムが定めた表示方法
に則って自主的に表示しています。

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

